

令和2年度 学校関係者評価書(様式)

鈴鹿市立加佐登小学校		【学校教育目標】思いやりをもち、自ら考え、自ら判断し、意欲的に取り組む子の育成		【めざす学校像】安心して過ごせる学校「毎日が楽しく、明日が待たれる学校」	
評価項目	本年度の教育活動の目標と評価のための具体的な指標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点
(1)主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり	<p>「分かる喜び」「学ぶ楽しさ」を顕著する授業づくり (研修部会) 井村・谷口</p> <p>【目標】全員参加で学び、主体的に授業づくり</p> <p>【指標】授業授業を年6回(全体3回、学年3回)入れる。授業公開を全職員が1回以上行う。自主研修会を定期的に行う。各学年で、算数アンケートの提示を作成する。職員アンケートにおいて、肯定的な回答が80%以上。</p>	B	<p>授業授業を年6回行うとともに、自主研修会を頻密に行ったり初任者研修の機会に全校教員が授業公開を行ったりして、研修する機会を増やした。職員アンケートは24.2パーセントと上昇した。4も73.7%と昨年度より15.8%上昇した。さらに研修を充実させていきたい。</p>	<p>授業授業を全学年で行った成果が出ている。</p> <p>若手・先生方にとって、既知の知識・現場とは違っているので、若手育成の体制づくりは十分であってほしい。学校として良い先生を育ててください。</p>	<p>来年度も一つひとつの研修会がより実りのあるものとなるように話し合いを重ねながら実施していきたい。また、学年・学年で管理職し合える雰囲気や大人数になら、来年度も自主研修会を行い、学校全体で力を付けていく機会を作りたい。</p>
	<p>新学習指導要領に即した授業改善 (研修部会) 井村・谷口</p> <p>【目標】主体的・対話的な学びのある授業づくり</p> <p>【指標】授業の中で、自分の考えを語り話したりする機会を意図的に設けていく。児童が学ぶ力の中で学習を進めているように、教師の発問や授業の進め方を工夫していく。児童アンケート1,2において、肯定的な回答「はい」「どちらかといえばはい」が80%以上。</p>	B	<p>各学年で意識して書いたり話したりする活動を取り入れることで、自分の思いや考えを持って授業に参加する児童が増えた。保護者アンケートは1が13.2%増加、2が7.8%増加したが、児童アンケートは1が7.9%減少、2が2.1%増加した。保護者も児童の成長を実感しているが、児童はまだまだ手探りで「開き感」をかかえている部分もあると思われる。児童の実態を正確に把握し、さらなる授業改善を行ってきたい。</p>	<p>職員アンケート9「他のクラスや学年の子どもの様子にも関心をもち、子どもに声掛けをしたり、自分の授業を聞いて他のクラスの授業を参観したりしている。」は、1、5、8の職員が「まあまあである」と回答している。専門職として非常に大切なことだと思うが、なかなか余裕はないのだろうか。</p> <p>今後、教科書もデジタル化されるの。それにより、授業はどのように変容するのか。</p>	<p>来年度は一人一人端末が整備されるので、それを使った効果的な研修を進めていきたい。また、使い方についても、年齢に応じた情報リテラシーを検証していく必要がある。必要に応じて、課題を明らかにして改善策を考えていきたい。</p>
	<p>教育ICTの日常化 (ICT担当) 野島、平子</p> <p>【目標】ICT機器を積極的に活用する。また、週1回以上はタブレットやプロジェクター等を授業の中に入れていく。職員アンケートにおいて、肯定的な回答が80%以上。</p>	B	<p>ICTを活用した授業づくりが実施でき、指標に達している。各学年等で、早い時期から学習計画を立て、ICT支援員さんへの連絡や調整がしやすいようにすれば、さらに活用を増やせたのではないかと思われる。</p>	<p>来年度から、一人に一台ずつ端末が整備される。ICT整備が進んでいて素晴らしい。児童の読み書きの学習が加速しないように配慮が必要。</p> <p>先進校の好事例を参考に、年齢に即したICTリテラシーについてのカリキュラム作成が必要である。</p> <p>プロジェクター・タブレットの利用によって、授業等の効率アップが図られている。また、Chromebookでの学習により、知識・技能の向上が期待できる。</p> <p>メータイターの取組と学習はどうか。どのように、ICT機器と整合性をとるのか。</p> <p>ICT機器の活用例として、漢字の書き順の学習には有効である。</p> <p>ICT機器に関する教職員の研修が必要となるが、どのように進めていこうか。</p>	<p>来年度は貸出冊数が少なくなった。クラスごと・学年ごとの貸出ランキングを作っていくこと、また来たいと思える図書館運営を行っていく。</p>
(2)互いを尊重し、安心して暮らす人間関係づくり	<p>図書鑑賞の充実 (図書教育担当) 大世古・明石</p> <p>【目標】豊かな心を育む読書活動の推進</p> <p>【指標】図書祭りにおける図書委員の読み聞かせを年2回実施。教員による読み聞かせを年5回以上実施する。主に1~4年で、読み聞かせを年15回以上実施する。巡回指導員になるまで、各学年で1回以上実施する。アニーとグレースを定期的に図書室に設置する。その結果として、平均貸出冊数を年間低学年30冊以上、高学年20冊以上とする。児童アンケート4において肯定的な回答が80%以上。</p>	B	<p>図書鑑賞については、密を達するために、図書委員がビデオでの読み聞かせを行ったり、図書クイズを行ったり、これまでは連絡した形で実施することができた。読み聞かせボランティアの方や教員による読み聞かせも、目標回数以上実施することができた。巡回指導員によるブックトークは、4つの学年で実施された。季節のテーマに沿ったテーマを定期的に設置することができた。平均貸出冊数は、低学年20冊・高学年20冊となり、今年度の目標値を達成することができた。9月に図書アニーが故障し、貸出データがない月があったり、4月・5月に休校して貸出が出来なかったことが原因と考えられる。児童アンケート4において、図書館の積極的な活用については肯定的な回答が41.2% (前年比-21.5%)にとどまった。タブレットが導入され、本を活用して調べ学習を行う機会が減ったため、図書館の活用が減ったと考えられる。図書館ならではの良さを生かした活用ができる取組をしていく必要がある。</p>	<p>新しい意欲的な図書に感銘を受けた。図書館も難しい面があるが、子どもたちの読書に対する意欲を高めることができれば、授業も進んでいく。</p> <p>図書館ならではの良さは、どのようなことが考えられるか。次年度に取組む内容を明らかにするとしてい。</p>	<p>今年度は貸出冊数が少なくなった。クラスごと・学年ごとの貸出ランキングを作っていくこと、また来たいと思える図書館運営を行っていく。</p>
	<p>人権を尊重する態度の育成 (人権教育担当) 新聞</p> <p>【目標】自尊感情を高めることを思いやる心の育成</p> <p>【指標】毎月「人権の日」を設定し、人権について自分を見つける機会を設ける。また、人権の授業を各クラスで1回以上行う。児童アンケート1,5,6,7,1,0,1,4で肯定的な回答が80%以上。教職員の人権意識を高めるための研修を行う。年間3回以上。</p>	B	<p>人権に関わる授業や活動を毎月設置している「校内人権の日」や11月のいじめ防止強化月間を中心に各学年で実施することができた。さらに、人権意識向上を促すための教職員のシンクタンク着用品や、それらの意味や家庭や地域に発信したことで、自ら人権の物事を身に付ける児童も多くなっているように感じた。特に1,0,1,4では、昨年度より5〜8%増え、自己肯定感の改善や人権意識の向上の傾向があると捉えられる。今後も引き続き、教師から発信していく取組を継続していきたい。</p>	<p>ピンク色の物を身に付けるのは、学校独自の取組。男子にはハードルが高いのではないかと。どのクラスの子どもも積極的に付けているのか。勉強はよい、子どもに意味はない、働きかけ、自主的に取り組むようになる取組がよい。その上で、やむを得ない場合は、意義がある。</p> <p>人権に対する意識の向上が図られている。シンクタンク運動の更なる推進を期待する。</p> <p>学年より等々、取組について発信し、保護者の意識を高めることも必要である。</p>	<p>今年度は貸出冊数が少なくなった。クラスごと・学年ごとの貸出ランキングを作っていくこと、また来たいと思える図書館運営を行っていく。</p>
	<p>不要校やいじめのない学校づくり (生活指導) 野島</p> <p>【目標】職員間及び関係機関との連携によるきめ細やかな指導・支援</p> <p>【指標】組織的な対応と情報共有を徹底する。児童アンケート6「いじめはどんな理由があってもいけない」と考える児童100%。児童アンケート7「いじめを見たり聞いたりした時に、やめるように言ったり、誰かに伝えたりすることができそうですか。」と考える児童が80%以上。</p>	B	<p>今年度は、1学期発覚したいじめについて該当児童と担任で話し合い、職員との共通理解を図った。職員会議や打ち合わせで情報交換もしている。学期1回以上いじめアンケートを実施し、児童の様子を把握し、気になる児童について対応した。スクールカウンセラーと連携し、不登校(傾向)児童の対応にあたり、児童アンケート6は、9.9.3%、児童アンケート7は、8.9.6%だった。いじめ事案に出合った際、止めるよう直接伝えたり、誰かに伝えたりする子どもたちも、さらに育てていく必要がある。また、いじめの未然防止に向け、職員が意思統一をして指導に当たることが勿論、いじめの早期発見、いじめ被害者への事実確認、及び全校で統一した指導方針の決定を早急に行うような体制づくりをしていく必要がある。</p>	<p>いじめは怖い、という回答が、保護者の理解や高い。小さい学年の時から、継続した取組をしていくことが大切であるとする。</p>	<p>今後は、意思統一をして指導していくことはもちろんであるが、いじめが発覚したときや早く対応して、統一した指導をできるだけの体制づくりを徹底していきたい。</p> <p>また、いじめはどんな理由があってもいけない、という考えや、いじめをよめるようなことが起こっても、直接加害者側におかしいことを伝えたり、誰かに相談したりするよう子どもたちを育てていきたい。教職員も一人一人、たくましく、一人一人の児童と向き合い、職員も励んでいきたい。</p>
(3)一人ひとりに応じた指導・支援の体制づくり	<p>個に応じた支援づくりや支援の工夫 (研修部会) 平子・谷口</p> <p>【目標】個の理解を深め、それに応じた教材や支援の工夫</p> <p>【指標】研修会で、課題をもつ子の困り感を共有したり、支援方法の研修会を行ったりする。外部機関と連携し、支援方法を校内で連携していく。</p>	B	<p>4月に特別支援学級の子どもが困り感等について研修会を行い、毎月校内支援委員会でも現状を伝えていく。10月に全体を見直し課題に対する研修会を行った。子どもが困り感を解決する方法や具体的な支援方法を全職員が研修会を持って、そのことを実際に実践できたかどうかを確認していく必要がある。</p>	<p>一人ひとりの個性に応じた具体的な支援方法について研修会を行ったことは評価できる。接辞については、それぞれの児童に対する実践報告の機会をもてばよいのではない。</p>	<p>校内支援委員会において、研修会で学んだ支援方法の成果について報告をする。その結果を検証し、その内容を来年度以降も実践できるように「すずかすずか支援ファイル」等を作成し、確実な引継ぎを行う。</p>
	<p>組織的・継続的な特別支援教育 (特別支援教育担当) 長谷・三村・谷口</p> <p>【目標】個に応じた支援の方向性の共有・継続</p> <p>【指標】校内支援委員会を月に1回実施。及び該当児童の支援計画作成100%。また、必要に応じて個別ケア会議を開催</p>	A	<p>校内支援委員会を毎月実施し、学年会で報告された支援を必要としている児童の様子や状況の情報共有を行った。また、スクールカウンセラーやその他の専門機関との情報共有を図るよう指導をしたり、校内支援体制の検討を行った。支援計画は100%作成。ケース会議は、本年度2回実施した。</p>	<p>特別支援コーディネーター、校内支援委員会が中心となり、組織的な支援体制が機能しているのが素晴らしい。</p> <p>引継ぎ支援会議の数、時間については、働き方改革の視点から改善できないか。</p>	<p>校内で進捗する際の引継ぎ支援会議は2020年度から実施なしにした。進学・入学先への引継ぎ支援会議については、引き続き実施する。(鈴鹿市教育振興基本計画実行計画に取組内容として記載されている)</p>
	<p>組織的で統一感をもった生活指導 (生活指導) 野村</p> <p>【目標】統一感をもった指導がなされるよう、情報共有を徹底する</p> <p>【指標】日ごろから、同じ学年の教員で情報共有ができているか。また、何か問題事象があった場合には、学年・学年部・担当者・関係者・管理職ですばやく情報共有ができた。職員アンケート5〜8において、肯定的な回答が80%以上。</p>	B	<p>問題行動が発生したときには、迅速に対応し指導できる体制ができているかという項目において80%以上。それ以外の職員が役割に応じて組織的に対応しているという項目で79.9%という達成状況であった。</p>	<p>学年や学年の問題については、対応のスピードアップが必要である。すぐに対応できる体制は必要。先生方との関わりはよい教育に不可欠である。問題発生時の「共有」を徹底し、更に向上する必要がある。</p> <p>職員アンケート7「子どもがルールを破っている時に、誰もが注意・指導をする」ということは教育現場として必要不可欠な事案だと思ふ。「十分である」という回答が、職員アンケート12「何かあればすぐ担当者へ情報があり、組織全体で情報共有できる」という「報告・連絡・相談」が実施されている」は、組織人として必須である。肯定的な回答が78.9%という十分なものである。</p>	<p>今後は、まず担当者からきちんと報告していくことを徹底する。組織全体できちんと共有されるように、小さなことでも報告していく。日ごろから学年の先生と相談することを怠らず、特に何か問題事象があった場合には、学年・学年部・担当者・関係者・管理職ですばやく情報共有をする。</p>
(4)児童生徒理解を生徒協とした生徒指導	<p>決まりを守り、人の気持ちを考えながら過ごることができる学校 (生徒指導)</p> <p>【目標】人の気持ちを考えながら行動することができる子どもの育成</p> <p>【指標】児童・保護者アンケートにおいて、8「自分からあいさつができる」、9「時間を守る行動を意識している」、10「人の気持ちを考えながら行動することができる」割合が80%以上。</p>	A	<p>児童アンケート8〜10の項目すべてで、80%を超える結果となった。特に、項目9では95.4%。項目10では89.5%という達成状況であった。児童一人ひとりが、周りの人の気持ちを考えながら学校生活を過ごす様子が増えてきているのが感じられる。今後も、学校全体で統一した指導を行ってきたい。</p>	<p>自分の児童への指導が、評価できる。</p> <p>地域の友や先生には、挨拶できる子どもが増えた。しかし、項目10の挨拶があり見られないように思う。まだ挨拶ができない子どももいるが、全く挨拶できなかったところから小さく口を動かすようになり、挨拶できるようになった。低学年からしっかりと指導する必要がある。また、思春期の子どもたちには、粘り強く、温かく働きかけを続けたい。</p> <p>社会のルールを教えるのは大人の務めである。大人全体が子どもたちに注意ができる社会でいたい。</p>	<p>「自分からあいさつをする」「時間を守る行動を意識する」「人の気持ちを考えながら行動する」という3点を今後も意識して生活するようには指導を続ける。とくに子どもたち同士でのあいさつや習慣づけが課題であったため、あいさつ運動をさらに意欲的に取り組んでいきたい。また、きまきまが何のためにあるのかという点で、子どもたちが納得できるような意味のあるまじり方を大切に指導していきたい。</p>
	<p>安全教育 (安全指導担当) 山崎</p> <p>【目標】主体的に安全を守りとする子どもの育成</p> <p>【指標】12月〜3月の避難訓練を実施し、安全な学校生活を過ごすために、自分で工夫をしたり、訓練に積極的に取り組んだりする児童が90%以上。</p>	B	<p>今年度は、コロナ禍の中で例年通りの避難訓練が実施できなかった。訓練としては、一次避難までとし、2次避難の指導で防災教育をイメージした避難の仕方(定期講習・避難方法)を実施した。また、防災アートの活用を積極的におこなった。定期的な学習の機会を提供することができた。</p>	<p>防災アートのとは、どのような物か、どのように活用しているのか。</p> <p>B評価となった理由は何か。</p>	<p>学校で被災することを大前提とする避難訓練だけでなく、登下校時や放課後等、大人が近くにいる状況での避難について、具体的な手立てを示していくことが必要と考える。</p>
	<p>保護者・地域と連携した安全安心対策 (管理職)</p> <p>【目標】地域との連携体制の構築</p> <p>【指標】学校運営協議会、まちづくり協議会、自治会等、地域へ学校からの情報を素早く発信できるように関係機関と連携を整える。</p>	B	<p>新型コロナウイルス感染症拡大により、ボランティア活動を昨年度並みに実施することが難しくなった。そんな中でも、毎朝の子どもたちの挨拶を見守ってくださる地域の方としっかりと連絡体制を構築できた。昨年、学費登録してもらった地域の見守りボランティアを更新して活用したり、メール登録を依頼したりすることができた。</p>	<p>青パが3台となり、充実した見守りができている。</p> <p>本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための活動を縮小せざるを得なかったが、次年度は、自治会や安全安心(見守り)ボランティアへの連絡体制を整備して、子どもたちの地域での安全性をさらに高めたい。</p>	<p>自治会や安全安心(見守り)ボランティアへの連絡体制を整備する。</p>
(5)安全で安心な学びの場づくり	<p>学校運営協議会での協働に基づく改善 (管理職)</p> <p>【目標】協議会での協働による具体的な取組の共有</p> <p>【指標】学校運営協議会各回で話し合われた内容を「自己肯定感」により学校内外に発信し、保護者の理解率50%以上とする。</p>	B	<p>学校運営協議会やその活動の周知は、昨年度41.6%から本年度51.5%と、約10%の向上を達成することができた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大により、学校の周知計画を大きく見直しとなり、学校運営協議会での協議に基づく改善活動10分だったとは言えない。</p>	<p>本年度は、そのような状況だったので、年間計画通りに教育活動を行なえたこととやむを得ない。次年度は、学校の課題等についての協議の場も増やして、学校改善から先に前進させたい。</p>	<p>自校の教育課題の共有と改善に向けた協議による学校づくりを推進していき、各々が当事者意識をもち、積極的に提案し実行責任を担っていく。</p> <p>校務表、学校・学年・学級だよりの内容・配布方法の見直し、職員会議中、留守番電話対応とする。</p>
	<p>地域への教育力の活用 (管理職)</p> <p>【目標】学校・保護者・地域全体による子どもの「規範意識」の向上</p> <p>【指標】児童アンケート13・14、保護者アンケート13・14において、「自己肯定感」「自己肯定感」があるとする児童の割合を、それぞれ90%、80%以上とする。</p>	A	<p>4〜6年児童アンケートにおける肯定的な回答</p> <p>【規範意識】R1年度78.0%・R2年度94.8% (前年度比+6.8%)</p> <p>【自己肯定感】R1年度74.7%・R2年度83.0% (前年度比+8.3%)</p> <p>【保護者アンケート】R1年度91.9%・R2年度93.1% (前年度比+1.2%)</p> <p>【自己肯定感】81.7%</p> <p>学校職員、保護者、地域からの子どもたちへの肯定的な声か向上の一因となっていると考える。それにより、子どもたちからの明るく素直な反応も増えてきた。</p>	<p>先生方が一人ひとりをよく見てくれていることが、自己肯定感の向上につながったのではないかと。子どもたちの成長は、地域の人とのコミュニケーションに依るところも大きいのではないかと。地域とつながることを大切にしていきたい。</p> <p>【保護者アンケート】「学校運営協議会」で実施されたこと、保護者が見通しをもった教育ができるよう、保護者を対象にした子育て研修の機会を設けてほしい。</p>	<p>保護者・地域に教育に関与してもらおうための手立てを考えていきたい。例えば、家庭教育学習との連携、地域学習の活用、学校PT等の発信等。</p>
	<p>総務時間削減 (管理職・教務)</p> <p>【目標】業務の効率化</p> <p>【指標】12月〜3月の毎月労働時間が120時間以内(月平均30時間以内)となる。全員が、月2回の定時退校日を行う。少なくとも1回は定時退校日とする(定時退校日50%)以上。</p>	B	<p>12月の平均時間外労働時間18.7h(前年度25.3h)</p> <p>30時間超え者3名というのは、多いのではないかと。定時退校率が前年より落ちているのも気になる。コロナ関係での対応や、研修等の準備に時間がかかったことなどが、改善を期待したい。未定時退校者43.5% (前年度41.9%)</p> <p>勤務時間の削減が進んでいる。しかし、定時退校率が低下してしまっているため、職員全員で取り組む意義を確立し、意識を高めていく必要がある。</p>	<p>職員アンケート10「会議において実効性のある話し合いがなされ、実践されている」が肯定的な回答が63.9%に低下している。短い時間でも、いい時を待たせたい。</p> <p>職員アンケート11「学校運営協議会」で実施されたこと、保護者が見通しをもった教育ができるよう、保護者を対象にした子育て研修の機会を設けてほしい。</p>	<p>一部の教員に仕事が偏らないように、業務の平準化や繁忙期と閑散期を見通して、仕事の割り振りを行う。</p> <p>業務改善について、各々が当事者意識をもち、積極的に提案し実行責任を担っていく。</p>
(7)教職員の働きやすい労働環境づくり	<p>学校環境の整備 (管理職・教務)</p> <p>【目標】環境整備をトップダウンからボトムアップへ転換する。</p> <p>【指標】管理職からではなく、職員からの提案による環境整備を10%以上実施する。</p>	A	<p>職員の提案による環境整備が昨年度より大幅に増えた。「チーム加佐登」としての意識が醸成されてきたことが表れていると考える。</p>	<p>ボトムアップというのは、素晴らしい。ボランティアの設置や、給食室のトイレが洋式に改修されたこと等、ボトムアップによって環境改善のスピードが速くなったことなどが、改善を期待したい。</p> <p>学校の環境整備は、P.T.A.やまちづくり協議会の皆さんにご支援いただいたりしていることも大きい。運動場フェンス治りの小倉井用周りは草が生い茂っている。泥上げのたいがいしている。除草機、どこがどのように進められるか、はっきりとさせておきたい。清掃作業が必要なら協力したい。</p>	<p>今年度作成した「修繕等の依頼票」を積極的に活用する。教職員だけでなく、子どもたちにも環境整備・改善について意識させていきたい。</p>